

調査期間 2018年12月16日～調査中

所在地 足柄上郡山北町川西

時代 近世、奈良・平安、縄文

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

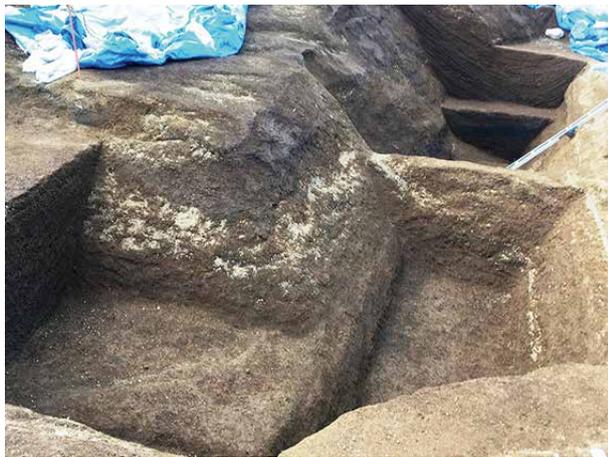
遺跡位置 JR御殿場線谷峨駅の北西約1.5kmの山地



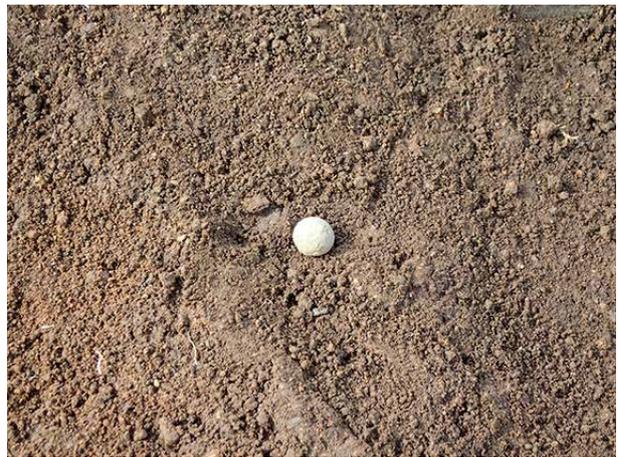
主な調査成果

櫓（やぐら）台跡と古地図に記された曲輪の周辺からは、堀が2条検出されました。堀の規模は1つが幅13m、深さ6.9m、もう1つは幅16m、深さは9.5mを測ります。堀の中には高さ1.5m程の高さの地山を削り出した土手が規則的にみられます。これは障子堀と言われるもので、堀底に掘った土手を障子の棧（さん）状に区画した造りのことです。堀の覆土には、堀が埋まりきる前に宝永火山灰が堆積している堀と、堀が埋まりきった後に火山灰が堆積した2種類の特徴があります。このことから、堀が埋まるまでに時間差があったと推定されます。河村新城の築城時期を考える上で重要な発見と言えます。

遺物は、かわらけと呼ばれる土師質土器や播鉢、甕、輸入磁器などの生活用具のほか、直径11mmの銃弾も出土しました。戦場であった往時の河村新城を彷彿とさせる出土品です。



C1号堀



銃弾出土状況